

雲海に浮かぶ備中松山城



国重要文化財・史跡
備中松山城
 つわものどもが夢の跡、
 在りし日のもののふの鼓動を感じる

備中松山城を有する臥牛山は4つの峰の「大松山・天神の丸・小松山・前山」からなります。小松山にある備中松山城は唯一、天守が現存する近世の山城です。臥牛山一帯が中世の遺構を備えており、日本の山城の典型ともいわれています。



城下町高梁



高梁

TAKAHASHI

備中国 城下町高梁と
 レトロタウン吹屋の町並み



吹屋

FUKIYA

岡山県高梁市



高梁市へのアクセス

- 岡山自動車道賀陽ICより国道484号線で約15分
- 岡山自動車道有漢ICより国道313号線で約25分
- JR岡山駅より伯備線で備中高梁駅下車(各駅停車で約50分・特急列車で約35分)
- 岡山空港から車で約50分

吹屋へのアクセス

- JR備中高梁駅から車で国道180号～県道85号経由26km約50分

お問い合わせ先(観光協会・観光案内所)

- 高梁市観光案内所 TEL.0866-22-8666
- (一社)高梁市観光協会 TEL.0866-21-0461
- 成羽町観光協会吹屋支部 TEL.0866-29-2222

武家屋敷
 旧折井家・旧埴原家
 石火矢町ふるさと村は
 武家の町

漆喰壁の格式漂った旧折井家は、江戸時代後期に建てられたもので、当時160石の馬廻り役を勤めた武士が住んでいました。庭に面して資料館があります。旧埴原家は江戸時代中期の建築物です。寺院や数寄屋風の要素を取り入れた珍しい造りとなっており、市の重要文化財に指定されています。

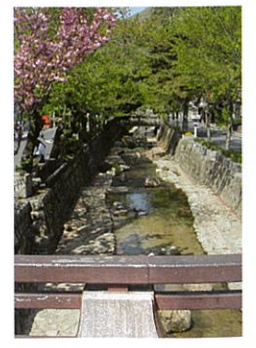


頼久寺・庭園
 国指定名勝
 小堀遠州が作庭した庭園

頼久寺は、足利尊氏が諸国に建立させた安国寺の一つと言われ、庭園は国指定の名勝となっています。庭園は備中国奉行として当時赴任していた小堀遠州が築いた枯山水で、遠州庭園の原点が見える庭として注目されています。江戸初期の完成で、桃山後期の特徴が表れています。

紺屋川筋
 美観地区
 時代に守られてきた、美しい景観を歩く

紺屋川は、かつて備中松山城の外堀の役割を果たしていました。河畔には美しい桜と柳の並木道が続き、県下最古の教会・高梁キリスト教会堂や藩校・有終館跡など情緒豊かな町並みが広がっており、「日本の道100選」にも選ばれています。



吹屋

ふるさと村

FUKIYA
FURUSATO
VILLAGE

江戸から明治にかけて鉦山の町として栄えた吹屋。特に江戸末期からは、ベンガラの国内唯一の産地として名を馳せました。赤銅色の石州瓦とベンガラ色の外観で統一された見事な町並みは、吹屋の長者達が後世に残した文化遺産です。

江戸から明治にかけて鉦山の町として栄えた吹屋。特に江戸末期からは、ベンガラの国内唯一の産地として名を馳せました。赤銅色の石州瓦とベンガラ色の外観で統一された見事な町並みは、吹屋の長者達が後世に残した文化遺産です。



広兼邸 市指定重要文化財

広兼家は大野呂の庄屋で、二代・元治が享和・文化の頃に小泉銅山とローハ(ベンガラの原料)製造を営み巨大な富を得て、江戸時代後期に築かれた屋敷です。その石垣は城郭と見まがうばかりで、映画「八つ墓村」のロケ地としても知られています。



旧吹屋小学校 県指定重要文化財

吉岡銅山とベンガラ生産が隆盛を極めた時期の明治31年(1898)に三菱商会から本部敷地を譲り受け、明治42年(1909)には本館が完成しました。平成24年(2012)に閉校する前は、現役最古の木造校舎として多くの人に愛されました。今も現役当時の姿そのままが残され、観光スポットとなっています。
※平成32年(2020)3月末まで修復工事中

延命寺

曹洞宗・若杉山延命寺は永正2年(1505)の開基と伝えられています。寛政年間(1789-1801)に焼失し、文化4年(1807)再建といわれています。最盛時には吹屋の銅山師やベンガラ窯元など豪商が檀家となっていました。



西江邸 国登録有形文化財 ※吹屋観光案内所より約4km

西江家は、郡中惣代庄屋(大庄屋)として代官所の役割も兼ねていました。お白州(簡易裁判所)、郷倉、馬車舎、手習い場も備えていました。宝暦元年(1751)本山鉦山を拓いた六代目西江兵右衛門がベンガラの原料であるローハ(緑礬)の量産化に成功し、「本山紅柄」としてベンガラ製造を手がけました。



中町の町並み

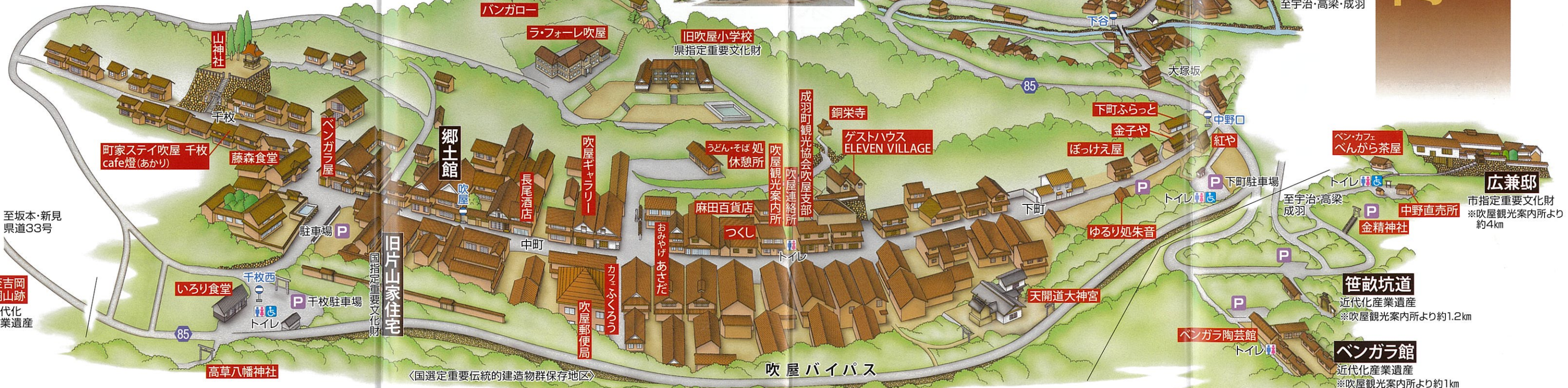
西江邸

国登録有形文化財

至新見

至成羽・井原

至吹屋



至坂本・新見
県道33号

至吉岡
銅山跡
近代化
産業遺産

旧片山家住宅(本片面)

国指定重要文化財

宝暦9年(1759)の創業以来、220年余りにわたって、ベンガラ製造と販売を手がけた老舗でした。その家屋はベンガラ窯元としての店構えを残す主屋とともにベンガラ製造に関わる附属屋が立ち並び「近世ベンガラ商家の典型」として評価され、平成18年(2006)に国の重要文化財に指定されました。

郷土館(角片面)

本片山の総支配人であった片山嘉吉が、わざわざ石州の宮大工を呼び寄せ5年の歳月をかけて明治12年(1879)に完成させました。土台と外回りは栗の角材を用い、縁敷居は桜の巨材を使い、書院まわりは生漆とベンガラで塗りあげられています。二階には六畳ほどの隠し部屋と呼ばれる部屋があります。

ベンガラ館 近代化産業遺産

ベンガラは江戸中期(宝永4年、1707年)全国で初めて吹屋で生産されて以来、江戸後期、明治、大正と大いに繁昌を続け、吹屋の町並みの基礎をつくりました。このベンガラ館は、明治の頃のベンガラ工場が当時の姿に復元されたもので、資料館としてベンガラ景気に沸いたころの吹屋の町の姿や製造工程などを知ることができます。

ベンガラ陶芸館

吹屋は昭和40年(1965)頃までベンガラの特産地で、赤色顔料として古くから九谷焼、伊万里焼、京焼などの陶磁器の赤絵、輪島塗りの漆器、衣料の下染め、家屋、船舶の塗料などに使われていました。この陶芸館ではベンガラを使った陶芸を行い、今までの見る観光から、学び体験する観光をしてみらおうと陶芸教室を開講しています。

笹畝坑道 近代化産業遺産

この坑道は江戸時代から大正時代まで採掘されていたもので黄銅鉱、硫化鉄鉱を産出していました。昭和53年(1978)に復元、坑内を見学できるようにしました。冒険心をそそる神秘的な坑内は、年中15℃前後で外とは別世界。